あとがき

旅の目的地がブルガリアになったのは、さしたる理由などない。2010年に何かと物価の安いシチリアを旅し、次ぎに行くところとして久しぶりのドイツなどを検討した。ところがガイドブックを取り寄せて宿関係を調べたら、ミュンヘンの中級クラスで80€くらいする。地方へ行けばもう少し安くなるにせよ、これで一月旅するのは結構きついし、安宿を探しながらあれこれ苦労するのも嫌になっていた。

それではと、安さから国を探したとき頭に浮かんだのはブルガリアだった。見所はイタリアやドイツに較べて少ないかもしれないが、丸でないというわけでもない。治安も良さそうだ。その程度で決まったから、我ながら随分杜撰な選択だと思う。しかしいざ旅をしてみれば幸運な選択だったといえる。

まず物価が予想以上に安かった。宿と食事関係（食堂と食材）、交通費が安いから、旅人にとっては嬉しい限りだ。人柄も素朴で親切だし、美男美女が多いことも眼福といえよう。人間関係で嫌な思いをしたのはソフィアの雲助タクシーぐらいで、これだってご愛敬程度のトラブルだった。

物足りなかった点は、景観にせよ建造物でもどれも小振りで圧倒されるようなものがなかったことだ。これは地理的に交易などの要点になれなかったことと、オスマントルコに長年搾取され、その間に蓄積されたものがあまりなかったことなどによると思われる。

その他トラブルとしては、歯が二本も欠けてしまったことだが、意外に辛い思いをせずに旅を続けることができた。帰国後に歯医者で真っ二つに割れていることを告げられ、ビックリしたような次第だった。

全般的に旅を振り返ってみると、困難や障害に悩まされることもなかった替わりに、非常に感動するようなこともなかった。云ってみればぬるま湯に浸かったような日々だったかと思う。しかし加齢に伴う衰えを考えれば、この程度が今の我が身には相応しいのかと思う。